

2025年12月8日

【2027年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査】 インターンシップ等参加による採用選考や学生生活への影響

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの参加学生のうち
参加後に企業からのアプローチあり72.6%、参加者限定の選考案内あり65.6%

株式会社インディードリクルートパートナーズ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：浅野 健）のリサーチセンターは、学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「2027年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

<解説：リサーチセンター 上席主任研究員 栗田 貴祥>

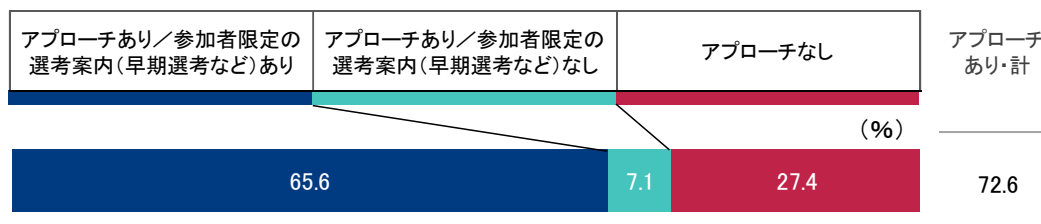


今回の調査では2027年卒学生のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムについて、参加後の企業から学生へのアプローチや学生生活との両立の状況を聴取しました。なお、本調査ではオープン・カンパニー（タイプ1）、キャリア教育（タイプ2）、インターンシップ（タイプ3・タイプ4）を「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」としています。「参加することで選考の一部免除や早期選考案内がある」と企業が明示し

たプログラムの割合は「50%程度（半分くらい）」が最も高く27.9%で、「ほぼすべて」「75%程度（半分よりも多い）」を含めると6割を超えます。実際に参加した学生のうち72.6%が参加後に企業からのアプローチがあり、65.6%が早期選考など参加者限定の選考案内を受けたという結果でした。プログラム参加にはまとまった時間も要しますが、他活動時間への影響を聞いたところ、アルバイトや趣味の時間を削るなど約8割の学生が何らかの影響を受けているようです。学業に関しては、参加による単位・成績への影響が「特に無かったと思う」と回答した学生は76.8%、授業との重複により参加をあきらめた経験がある学生は68.2%など、学業とバランスを取りながら参加している学生も多いようです。また、参加による変化として「学業に取り組む意欲が高まった（そう思う・計）」が76.2%を占め、学業への好影響も確認できました。これから企業の採用活動が本格化しますが、引き続き学業にも励んでいただき、自分らしいキャリア選択を実現していただければと思います。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加後の企業からのアプローチ

（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加経験者
/数値回答）



本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.indeedrecruit-partners.co.jp/support/form>

調査概要

■2027年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査

調査目的：2027年卒学生のインターンシップ・就職活動準備の現状を把握する

調査方法：インターネット調査

調査対象：『リクナビ』（※）会員より、2027年3月までに卒業予定の大学生および大学院生

調査期間：2025年9月21日～10月8日

回答者数：大学生 434人 大学院生 93人

集計方法：大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト

<https://job.rikunabi.com/n/>

◀ 調査結果を見る際の注意点 ▶

- ・ %を表示する際に小数第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- ・ データは無回答サンプルを除いて集計している
- ・ 2027年卒業を「2027年卒」と表記

◀ 調査の集計について ▶

- ・ 「2025年9月時点での進路の志望状況」で①～⑥のいずれかを選択した回答者を「就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む」として集計する

2025年9月時点での進路の志望状況（大学生/複数回答）

	n数	① まだ 志望進路を 決めていない	② 民間企業に 就職したい	③ 公務員として 就職したい	④ 教員として 就職したい	⑤ 医師・ 歯科医師・ 看護師として 就職したい	⑥ 公務員・ 教員・医師・ 歯科医師・ 看護師以外で 民間企業では ない組織・団体 に 就職したい	⑦ 起業したい	⑧ 大学院等へ 進学したい	⑨ 留学したい	⑩ 留年するので 卒業しない	⑪ その他
卒業後の 志望進路	437	12.5%	72.9%	19.6%	3.2%	1.0%	4.9%	1.1%	8.5%	1.0%	-	1.0%

■掲載内容

- P.4 インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの応募のきっかけ
- P.5 プログラム参加後の企業からのアプローチ、参加者限定の選考案内
- P.6 インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加による他活動時間への影響
- P.7 インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加による単位や成績への影響
- P.8 授業との重複によりプログラム参加をあきらめた経験、重複時の相談経験
- P.9 インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加後の現在の状況

株式会社インディードリクルートパートナーズについて

株式会社インディードリクルートパートナーズは、リクルートグループのグループ会社として、人材メディア事業の販売代理店機能、人材紹介事業等を担っております。当社は、リクルートグループの事業戦略である「Simplify Hiring」の推進を加速するため、HRテクノロジーSBUの一部として2025年4月1日より運営を開始いたしました。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ： <https://recruit-holdings.com/ja/>

インディードリクルートパートナーズ： <https://www.indeedrecruit-partners.co.jp/>

(参考) インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの全体像 (25年卒から適用)

- タイプ1～4はキャリア形成支援の取り組みであって、採用活動ではない。
学生は改めて採用選考のためのエントリーが必要
- タイプ3ならびにタイプ4のみ、取得した学生情報の採用活動への活用は、「採用活動開始以降に限り、可」

類 型		タイプ1 オープン・カンパニー ※オープン・キャンパスの企業・業界・仕事版
対 象		年次不問
主たる 目的	学生	企業・業界・仕事を具体的に知る
	大学／ 企業	企業・業界・仕事への理解促進

類 型		タイプ2 キャリア教育 (プレ・インターンシップ を含む)	タイプ3 汎用的能力・ 専門活用型 インターンシップ	タイプ4 高度専門型 インターンシップ ※試行結果を踏まえ、 今後判断
対 象		年次不問	学部3・4年、修士1・2年、 博士課程学生	修士課程、博士課程学生
主たる 目的	学生	自らのキャリア (職業観・就業観)を考える	その仕事に就く能力が 自らに備わっているか 見極める	自らの専門性を実践で活かし、 向上させる (実践研究力の向上等)
	大学／ 企業	能力開発／ キャリア教育	マッチング精度向上／ 採用選考を視野に入れた 評価材料の取得	今後拡大が見込まれる ジョブ型採用を見据えた 産学連携の大学院教育

※採用と大学教育の未来に関する産学協議会・報告書を基に就職みらい研究所にて作成

※出所『就職白書2025』

<インターンシップと称するための5要件>

1. 実施期間の半分を超える日数を職場での就業体験に充てる (就業体験要件)
2. 職場の社員が学生を指導し、学生に対しフィードバックを行う (指導要件)
3. 汎用的能力活用型は5日間以上。専門活用型は2週間以上 (実施期間要件)
4. 学業との両立の観点から、長期休暇期間 (夏休み、冬休み、入試休み・春休み)
ただし、大学正課および博士課程は、長期休暇に限定されない (実施時期要件)
5. 次の①～⑨に関する情報が募集要項等に記載されていることが求められる (情報開示要件)
 - ①プログラムの趣旨 (目的)
 - ②実施時期・期間、場所、募集人数、選抜方法、無給/有給等
 - ③就業体験の内容 (受け入れ職場に関する情報を含む)
 - ④就業体験を行う際に必要な (求められる) 能力
 - ⑤インターンシップにおけるフィードバック
 - ⑥採用活動開始以降に限り、インターンシップを通じて取得した学生情報を活用する旨
(活用内容の記載は任意)
 - ⑦当該年度のインターンシップ実施計画 (時期・回数・規模等)
 - ⑧インターンシップ実施に係る実績概要 (過去2～3年程度)
 - ⑨採用選考活動等の実績概要 ※企業による公表のみ

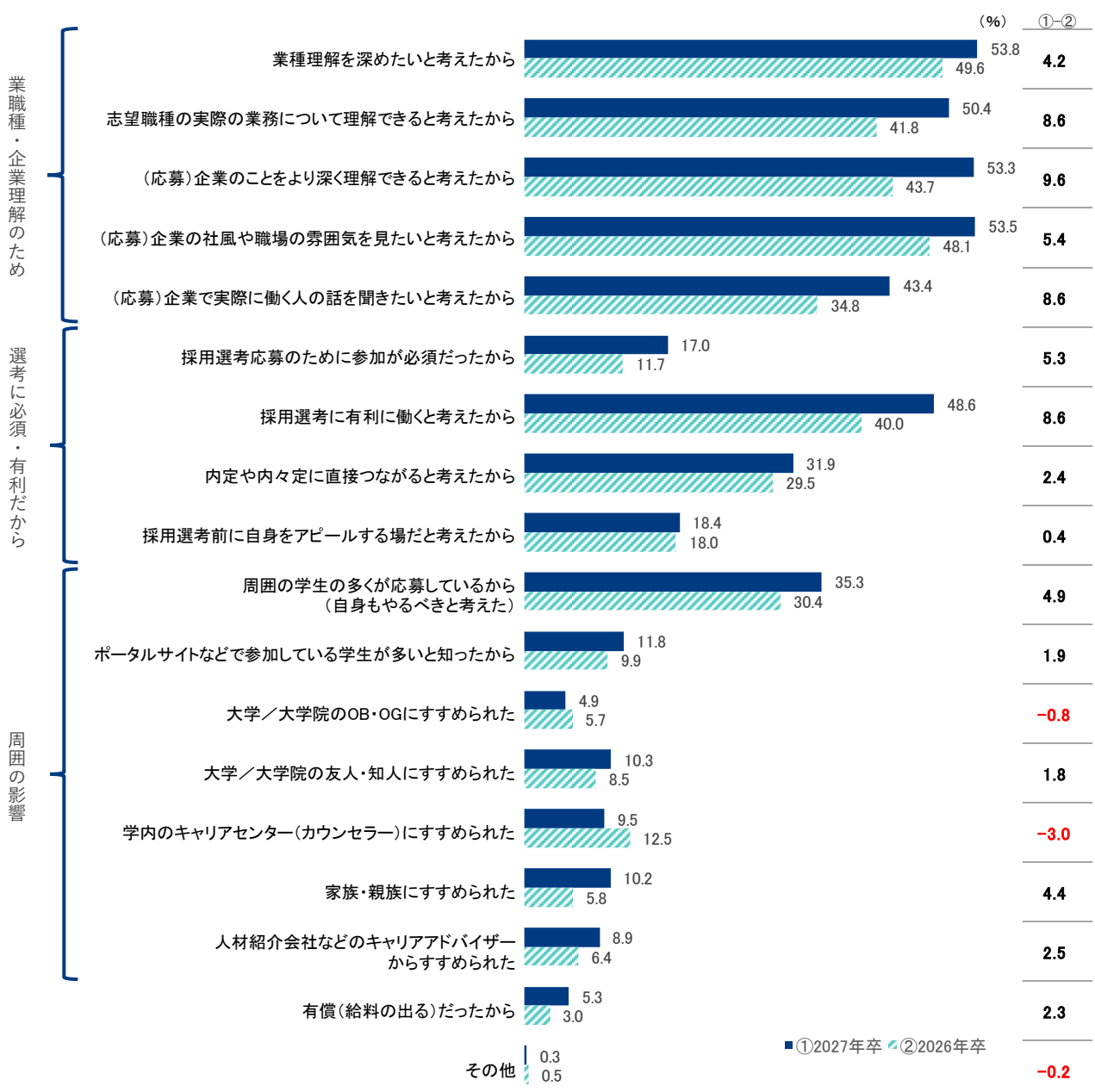
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの応募のきっかけ

業職種・企業理解のほか「採用選考に有利に働くと考えたから」が48.6%

- ・ インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの応募のきっかけは、多くの項目で2026年卒を上回り、「業種理解を深めたいと考えたから」53.8%、「（応募）企業の社風や職場の雰囲気を見たいと考えたから」53.5%のように業職種や企業理解を深めたいという意向がうかがえる。
- ・ 「採用選考に有利に働くと考えたから」が48.6%で約半数を占め、26年卒から8.6ポイント増加した。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの応募のきっかけ

（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム応募経験者
/複数回答）



補足：「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

プログラム参加後の企業からのアプローチ、参加者限定の選考案内

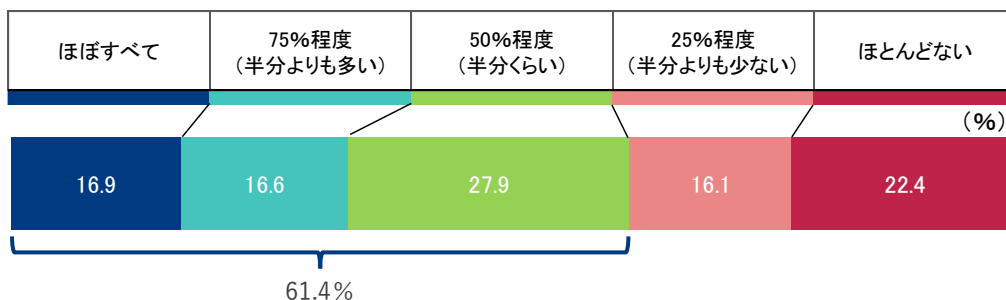
参加後に企業からのアプローチあり72.6%、参加者限定の選考案内あり65.6%

- ・ インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加した学生に、「参加することで選考の一部免除や早期選考案内がある」と企業が明示したプログラムの割合を聞くと、「50%程度（半分くらい）」が最も高く27.9%で、「ほぼすべて」「75%程度（半分よりも多い）」を含めると6割を超える。
- ・ 参加後に企業からのアプローチがあった割合は72.6%。参加者限定の選考案内（早期選考など）があった割合は65.6%。さらに1日以下プログラムに限った場合もアプローチ割合は68.2%、参加者限定選考案内割合は60.4%を占める。

※アプローチとは、例えば選考案内や別イベントの案内、社員からの接触、定期的な情報提供などを指す

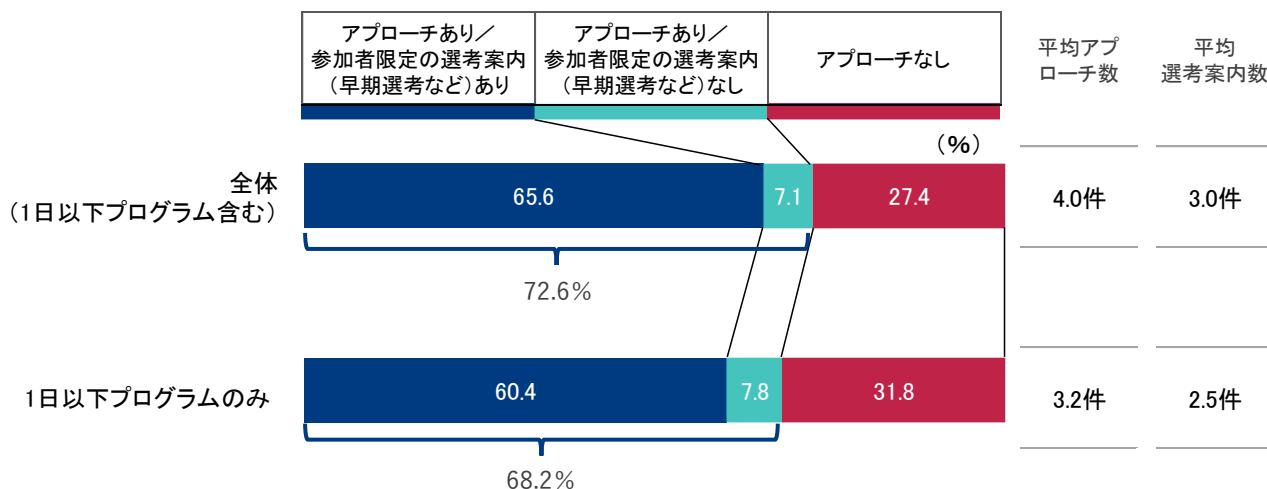
「参加することで選考の一部免除や早期選考案内がある」と企業が明示したプログラムの割合

（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加経験者
/単一回答）



インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加後の企業からのアプローチ

（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加経験者
/数値回答）



補足：「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

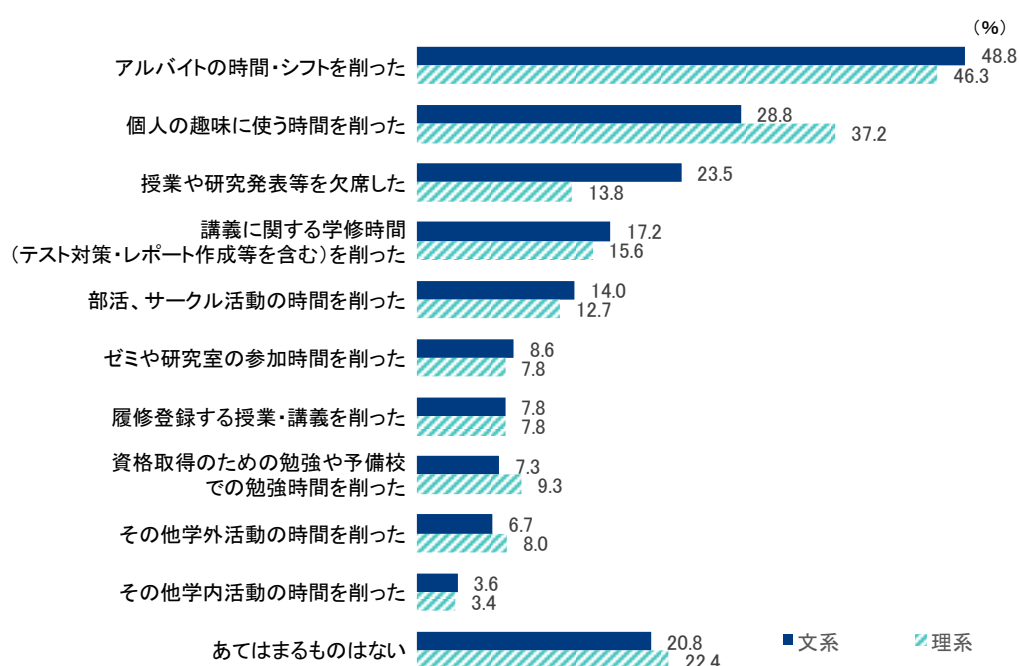
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加による他活動時間への影響

「アルバイトの時間・シフトを削った」が文理ともに最も高く4割超

- プログラム参加に丸一日や数日などまとまった時間も要するなか、他活動時間への影響は「あてはまるものはない」が文理ともに2割強で、残りの約8割は何らかの影響を受けている。
- 文理ともに最も高いのは「アルバイトの時間・シフトを削った」（文系48.8%、理系46.3%）、次いで「個人の趣味に使う時間を削った」（文系28.8%、理系37.2%）となった。
- 「授業や研究発表等を欠席した」は文系で23.5%、理系で13.8%であった。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加による他活動時間への影響

（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加経験者
/複数回答）



※「あてはまるものはない」以外を「文系」の数値の大きい順に掲載

【参考】インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへのプログラム期間別参加状況

（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む/数値回答）

	経験割合(%)	平均数(件)
1日以下	67.0	6.32
半日	53.1	5.69
1日	44.3	2.73
2日以上～5日未満	27.4	1.92
5日以上～2週間未満	18.6	1.52
2週間以上	2.0	2.77

※平均件数の集計対象は、各日程のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに1件以上参加した学生

※「2週間以上」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値

補足：「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

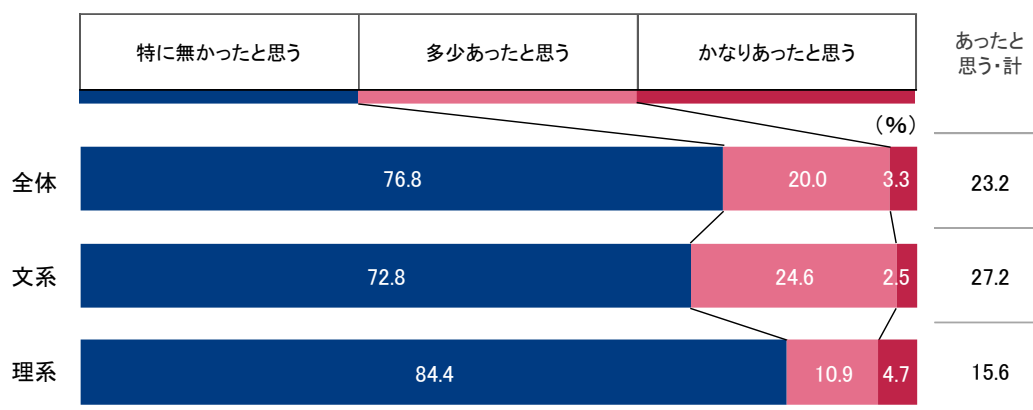
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加による単位や成績への影響

単位・成績への影響は「特に無かったと思う」が76.8%

- インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加による単位取得や成績評価への影響は、「特に無かったと思う」が76.8%。文系72.8%に対して理系84.4%で、理系学生の方が影響を感じていない。文系は「多少あったと思う」が24.6%で、約4人に1人であった。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加による単位や成績への影響

(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加経験者
/単一回答)



補足：「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

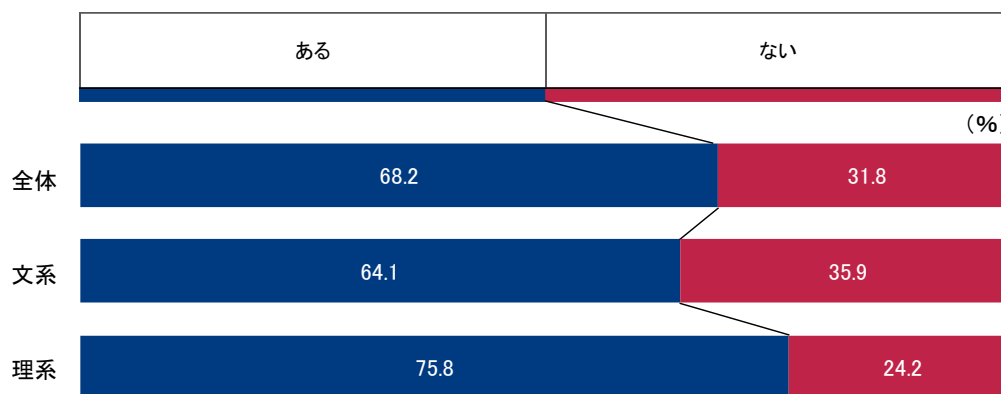
授業との重複によりプログラム参加をあきらめた経験、重複時の相談経験

授業との重複によりプログラム参加をあきらめた経験は68.2%

- ・ インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムと授業が重複したことで、プログラム参加をあきらめた経験がある学生は68.2%。文系64.1%に対して理系75.8%で10ポイント強の差がある。
- ・ 重複時に担当教員に相談した経験がある学生は11.2%、大学窓口（キャリアセンターや学生課）などに相談した経験がある学生は14.4%で1割程度にとどまる。

授業との重複によりインターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加をあきらめた経験

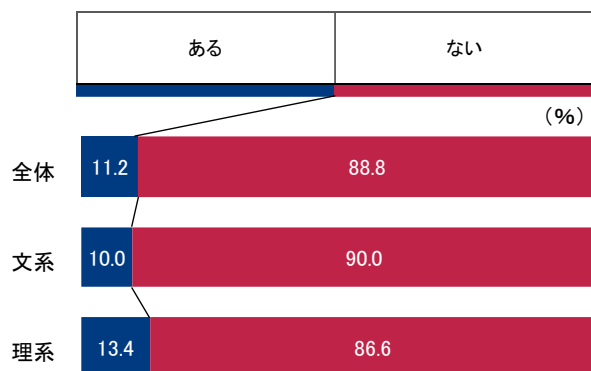
（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム応募経験者
/単一回答）



インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムと授業重複時の相談経験

（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム応募経験者
/単一回答）

➤ 担当教員に相談した経験



➤ 大学窓口（キャリアセンターや学生課）などに相談した経験



補足：「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加後の現在の状況

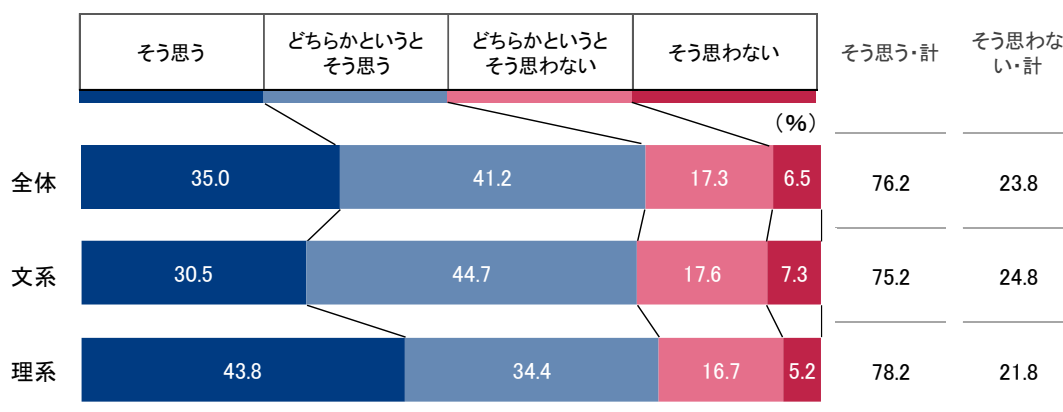
「学業に取り組む意欲が高まった（そう思う・計）」は文理ともに7割超

- インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加後の現在の状況で、「学業に取り組む意欲が高まった」については、「そう思う」が35.0%、「どちらかというと思う」が41.2%で合計76.2%を占め、文理ともに7割を超えた。
- 「大学・大学院でこれから学びたいことがより具体的になった」については、「そう思う」が31.8%、「どちらかというと思う」が37.2%で合計69.0%だが、文系65.0%に対し理系76.7%で、理系学生の方がプログラム参加が今後学びたいことの具体化につながっている。

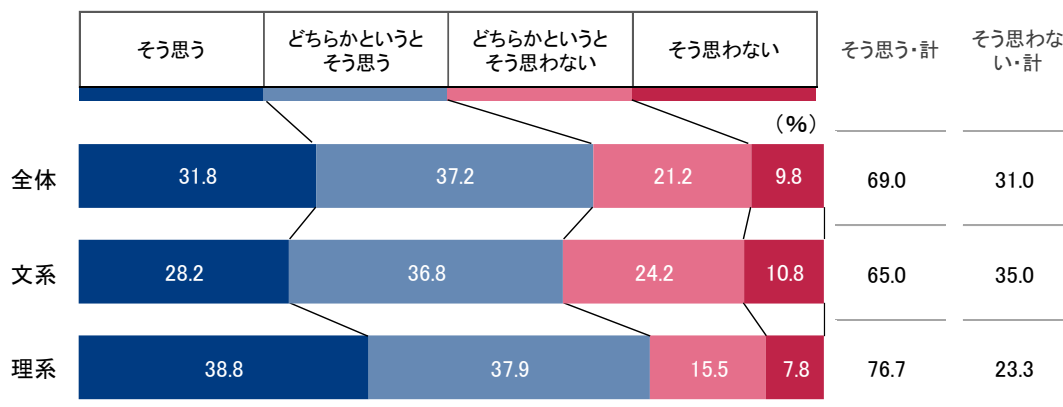
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加後の現在の状況

(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加経験者
/単一回答)

学業に取り組む意欲が高まった



大学・大学院でこれから学びたいことがより具体的になった



補足：「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している